

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.10 2008年5月31日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

### スマイルワークス、HDに対応したWeb会議サービスを開始

株式会社スマイルワークス(東京都千代田区)は、HD映像に対応した、SaaS型統合Webコラボレーションサービス「NET FORUM(ネットフォーラム)」のサービスを5月12日から開始した。

NET FORUMは、インターネット接続環境とブラウザが動作するPCであれば専用ソフトウェアが不要なWeb会議システム。通信はSSLで暗号化するとともに、使用用途、ネットワーク環境に応じて帯域を個別に設定することが可能なため低帯域の回線にも向いているという。

機能としては、アプリケーション共有、リモートPC、ゲスト招待、テキストチャットなどを提供する。リモートPCは、デスクトップ共有に相当するもので、たとえば、特定の専門スタッフに一時的に操作を許可することで現地に足を運ぶことなくパソコンのヘルプディスクやアプリケーションの操作指導などが行える機能。

ゲスト招待は、予め登録された正規ユーザ以外を一時的に利用可能にする「招待」機能。招待したいゲストをメールで通知する。ゲストはメールに添付されたURLをクリックすることで簡単に会議に参加できる。

NET FORUMの基本料金は、初期費用10万円(消費税別、以下同じ)、月額基本料3万円(1会議室+3ID発行)。会議室を追加の場合、1会議室あたり月額1万円(10会議室以上追加で割引価格あり)。またID追加の場合、1IDあたり月額3,000円(10ID以上で割引価格あり)。

現在14日間の無料体験サービスを行っている。申込は同社Webサイトから可能だ。

スマイルワークスは、2003年7月に設立。事業企画開発・プロジェクトマネジメントサービス、EC・CRMなどセールス&マーケティングシステム、システム開発・運用サービスなどを行っている。NET FORUM以外にも店舗向けWEB情報端末「WEB POS」やオンラインデータストレージ「SECURE

FOLDER」などを開発している。

## 業界ビジネス動向-国内

### 日立電線ネットワークスの多地点会議システム管理アプライアンスがPolycom ARENA Partner 製品に認定



#### Conference@Adapter(カンファレンス・アダプタ)

日立電線ネットワークス株式会社(東京都千代田区)は、同社が開発販売する多地点会議システム管理アプライアンス「Conference@Adapter(カンファレンス・アダプタ)」が米国ポリコム社のPolycom ARENA Partner Program(ポリコム アリーナ パートナ プログラム)に認定されたことを発表した。

Polycom ARENA Partner Programとは、ポリコム社製品と連携し、ポリコム社のソリューションに付加価値を加えるパートナー製品やサービスを認定するプログラム。Conference@Adapterは、ポリコム社の評価テストをクリアし、本プログラムのプラチナパートナー製品として認定登録された。

今後両社では、本プログラムを通して、ポリコム社製品とConference@Adapterとのインテグレーションを行い、「誰でも簡単に予約管理ができるビデオ会議ソリューション」として両社で協力してプロモーションを行っていく考え。

Conference@Adapterは、ポリコム社の多地点ビデオ会議接続サーバ「Polycom RMX 2000」及び会議レコーディングソリューション「Polycom RSS 2000」に対応しており、ビデオ会議の予約と開始を簡単にするだけでなく、システム管理者とユーザ両方の負担を軽減し、多地点ビデオ会議システムの運用コストをトータル的に抑える利点があると同社では説明する。

予約管理においては、ユーザが Web ブラウザを使って Conference@Adapter の予約画面にアクセスし、会議に参加する複数のビデオ会議端末を直感的な操作で予約できる。そして会議の予約時間になると、多地点ビデオ会議接続サーバがユーザの予約したビデオ会議端末に自動接続するが、スムーズに会議が開催できるように接続を簡単設定で行えるようにしている。また、仮に接続ができない場合でも、Web ブラウザから端末の接続状況や電源の状態から対応が迅速にできる。

その他、ユーザ権限の設定やシステムの自動バックアップによる復旧機能、システムのセキュリティ機能なども備えている。

1981年に日立電線エンジニアリング株式会社として設立し、LAN/WAN 構築、システム開発、データセンタ事業を行ってきた。親会社の日立電線株式会社は、1980年代からイーサネットスイッチ等ネットワーク機器の開発・製造を行ってきた。企業、大学、官公庁等へネットワークシステムの納入実績がある。そしてそれらのノウハウを活かすため、2000年より米国ポリコム社の販売代理店としてビデオ会議システム事業を開始。

2006年にポリコム社の販売代理店として最高レベルの「プラチナ認定」を取得した。2007年7月、日立電線グループのネットワークインテグレーション事業を「日立電線ネットワークス株式会社」として統合・再編し、ネットワークの設計構築、運用監視、データセンタサービスをワンストップで提供できる体制を構築した。

### NTT アドバンステクノロジー、RADVISION の SIP ツールキットを NEC ソフトに納入、IMS/NGN 対応機器開発を支援

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、NEC ソフト株式会社へ RADVISION の通信ミドルウェア「SIP ツールキット」を納入したと5月14日発表。

SIP ツールキットは、イスラエルのラドビジョン社が提供しているアプリケーション開発者向けに提供されているもの。日本を含め世界 60 カ国以上のベンダーで採用され、RFC3261 準拠のネットワーク・機器との接続実績やキャリアの IMS/NGN での実績があるという。

SIP ツールキットは、コンパクトな組み込みデバイスから

ハイエンドサーバまで適用可能なアーキテクチャーと汎用から組み込みまで多数の OS をサポートしている。また、IETF SIP(RFC3261)以外にも、IMS/MMD/OMA の SIP にも対応している。その他、開発・デバック時のログ出力機能や豊富なサンプルコードなどを提供している。

基本パッケージと各種アドオンモジュールで構成されており、開発製品あるいはサービスに応じて選択が可能となっている。基本パッケージは、SIP スタック、SDP スタック、RTP/RTCP スタックで構成されている。アドオンモジュールは、IMS、SigComp、SIMPLE Client、XML Schema Package、Microsoft CSTA XML、SCTP などが提供されている。

今回採用に至った理由としては、以下の通り。(1)世界で展開される IMS/NGN トライアルで接続実績があること、(2)API が充実しており、複雑な制御が要求されるアプリケーションでも容易に開発できること、(3)SIP は、IMS/NGN で採用され標準化は引き続き進展しているが、SIP ツールキットも常に最新標準に対応しており、今後世界中で出荷される IMS/NGN 製品・サービスとの相互接続が見込める、(4)NTT アドバンステクノロジーの技術サポートが充実しており、安心してアプリケーション開発が行える。

ラドビジョン社は、標準化や相互接続に関する国際的な動きなどに積極的に役割を果たしており、その成果は逐次この SIP ツールキットへ反映させているという。たとえば、3GPP/3GPP2/TISPAN/ITU/IETF/PacketCable などの標準化団体へ仕様提案活動を行い、ドラフト・標準になる可能性の高い仕様を SIP ツールキットのアーキテクチャに採用したりするとともに、メジャーなキャリアやメーカ各社が参加する相互接続の活動、SIPit/SIMPLEt/IMTC/GCF/IMS Forum などに積極的に参加し接続テストを実施、相互接続に必要な柔軟性を随時 SIP ツールキットに採用している。

ラドビジョン社は、開発者向けの H.323 や SIP ツールキット、テストツールの他、テレビ会議関連のハードウェアやソフトウェアを開発している。NTT アドバンステクノロジーは、ラドビジョン社の全製品を取り扱っており、特にソフトウェア製品については、日本の総代理店として一元的に販売及び技術サポートを行っている。

SIP ツールキットは、同社グローバルプロダクツ事業本部

ICT プロダクトビジネスユニット メディアコミュニケーションシステムチームで担当している。

## 製品・サービス動向-海外

### 米シスコシステムズ社、テレプレゼンス新製品を発表、また販売開始から 18 ヶ月で 500 台納入、多地点機能を 48 拠点まで強化

米シスコシステムズ社は、テレプレゼンスシステムの新製品2モデルを5月12日に発表した。

新製品は、一人あるいは二人程度のユーザ使用を想定した「Cisco TelePresence System 500」と、最大 18 席に対応した「Cisco TelePresence System 3200」の2モデル。北米での販売開始は、第三四半期からの予定。

同社では、現在グループ会議向けとして、6席まで対応した「Cisco TelePresence System 3000」と、3、4人程度に対応した「Cisco TelePresence System 1000」を販売しているが、今回の新製品は、現在のラインナップに対して、価格を抑えパーソナルユーザ使用を想定したモデルと、より多くの参加者に対応するモデルを追加したことになる。



### Cisco TelePresence System 500(シスコ・テレプレゼンス・システム 500)

Cisco TelePresence System 500は、37インチのディスプレイ、マイク、スピーカー、照明を内蔵したシステム。同社の製品紹介のページによると、テレプレゼンスをパーソナライズするシステムと同社では考えているようだが、上位モデルと同等の映像と音声品質を提供する。映像は、映像符号化はH.264、解像度はHD(1080p/720p)、フレーム数は、30フレーム/秒に対応。音声は、G.711とAAC-LD(22kHz)に対応。

システムは、使い方に応じて、机の上に置いたり、壁に取

り付けたり、あるいは、専用スタンドを使用することも可能。照明は、参加者の表情がよく相手側に見えるようにコール接続が開始すると点灯する仕組みになっているようだ。

またディスプレイはセカンドモニターとしても使えるとともに、「Cisco Digital Media System」と組み合わせると、デジタルサイネージ(映像や情報を画面に表示する情報配信システム)やストリーミングにも対応する。北米での価格は、33,900USD。個室を持つ役員などのパーソナルな用途を想定しているようだ。



### Cisco TelePresence System 3200(シスコ・テレプレゼンス・システム 3200)

Cisco TelePresence System 3200は、Cisco TelePresence System 3000で6人席対応であったのを、その6人席の後側にもう一つの弧の形をした長テーブルを提供することで最大18人席に対応したモデルとした。その大人数に対応するためのカメラレンズを新しくするとともに、30フレーム/秒でデータ共有を可能にする新しいコーデックも搭載した。

Cisco TelePresence System 3200は、大人数の会議やトレーニングなどに活用できると同社では考えている。

北米での価格は、340,000USD。また既存のCisco TelePresence System 3000ユーザ向けにCisco TelePresence System 3200アップグレードキットを90,000USDで提供している。

同社では、これに先立つ4月にシスコテレプレゼンスの企業導入が販売開始から18ヶ月で500台に達したという。また同社のテレプレゼンス向けの多地点接続機能は、1会議に48拠点まで同時に参加できるキャパシティに強化したとも発表している。

## Teliris 社、テレプレゼンスシステム、3モデル新たに発売

米テレプレゼンスメーカーの Teliris 社(テリリス)は、5月12日テレプレゼンスシステムの新製品を発表した。

「Teliris Personal Telepresence(テリリス・パーソナル・テレプレゼンス)」、「Teliris Express Telepresence(テリリス・エクスプレス・テレプレゼンス)」、「Teliris Custom Telepresence(テリリス・カスタム・テレプレゼンス)」の3モデル。

同社のテレプレゼンスシステムは、同室感を実現するために独自の VirtuaLive テレプレゼンス技術をベースに開発されており、マネージドサービスとバンドルして提供されている。

Teliris Personal Telepresence は、シングルユーザや企業の役員などのパーソナルユースをターゲットとするとともに、テレプレゼンスの低コスト化とを図ったシステム。40インチのシングルスクリーン、マイクなどを内蔵。HD映像(30/60フレーム秒)に対応し、最新の音声処理やピクチャー・イン・ピクチャー(PIP)、PAS(Positional Awareness System、参加者位置認識システム、同社の独自技術)を搭載している。北米での価格は、32,500USD。

Teliris Express Telepresence は、4席から6席対応のテレプレゼンスシステム。ディスプレイは46インチで、ニーズに応じて2台か3台で提供している。HD映像(30/60フレーム秒)に対応。既存の会議室に柔軟かつ容易に設置できるタイプのため、導入のために新たに部屋を施工したりする必要はないという。北米での価格は、99,000USD から125,000USD。

Teliris Custom Telepresence は、ユーザニーズに対応したカスタム構築が可能なテレプレゼンスシステム。会議室の他、講堂、R&D実験室、工場、石油掘削施設など用途毎に合わせてテレプレゼンスシステムを提供する。

テリリス社のテレプレゼンスシステムは、ゲートウェイも提供することで既存のテレビ会議システムとも相互接続を可能としている。

テリリス社(Teliris)は、2001年に設立。本社は、ニューヨークとロンドン。同社のテレプレゼンスシステムは、26カ国に設置実績があり、QUALCOMM社やRoyal Bank of Scotland銀行など数多くのグローバル顧客をもつ。2007年には、4000万USD規模の投資をベンチャーキャピタルから得る。

## 米アドビシステムズ社、Web 会議システムの新バージョンを発表

米アドビシステムズ社は、同社の Web 会議システム& e-learning ソリューションである「Adobe Acrobat Connect Pro(アドビー・アクロバット・コネクト・プロ)」の新バージョンを発表した。

新バージョンでは、録音・録画されたミーティングセッションを保存したり、編集したりする機能や、他のインスタントメッセージングとの連携(federation:フェデレーション)することが可能なプレゼンス機能、また利用状況などをレポートする機能などを追加した。

e-learning 用途では、ミーティングセッションから小グループに分かれてサブミーティングルームを作ることができるブレイクアウトルーム機能や、ビデオ映像のオーサリング機能、Blackboard や Sumtotal などの学習管理システム(LMS)とのシステム統合、オンライン授業を実施したり、その後の利用履歴を管理したりする機能も追加された。

また新バージョンと「Adobe Presenter(アドビープレゼンター)」を組み合わせると、フラッシュプレイヤーを使ったインタラクティブなプレゼンテーションが行える。プレゼンテーションに、映像、ナレーション、アニメーション、クイズを加えたり、あるいは相互に会話したり書き込んだりすることが出来る。また、プレゼンテーションファイルをモバイルデバイスで表示したり、PDF ファイル化したりする機能もある。

Adobe Acrobat Connect Pro は、アドビシステムズ社が2005年4月に買収したマクロメディア社で「Macromedia Breeze(マクロメディア・ブリーズ)」として開発されていたもの。

## 導入事例

### 日本興亜損害保険、Web 会議システムを全国300箇所に導入、業務効率化、社内コミュニケーションの強化、顧客サービスの向上に期待

日本興亜損害保険株式会社(東京都千代田区)は、5月20日マイクロソフトの Web 会議システム「Microsoft Office Live Meeting(マイクロソフト・オフィス・ライブ・ミーティング)」を全国全拠点300箇所に6月から本格導入すると発表。

同社では、全拠点に Web 会議を行うための専用のパソコンと Web カメラを配備し、光回線でインターネットに接続、Web 上での会議を開催する。

出張に関わる費用や時間、そして CO2 の排出削減、会議での紙資料の削減などを行うとともに、社員間のコミュニケーションの促進を通して、迅速で正確な現場の情報収集と社内情報の伝達を図る。さらに、自然災害などの緊急対応にも活用する考え。同社としてはこういった取り組みが、顧客へのさらなるサービス向上につながると期待している。

同社の発表資料によると、導入の初期コストは、約 1.1 億円、ランニングコストとして 5,000 万円から 7,000 万円を見積もる。しかし、導入によって出張にともなう年間経費約 2 億円の削減を見込んでいる。当面は日本国内拠点での運用だが、将来的には、関係代理店、取引先にまでその範囲を拡大する方向で具体的検証に入っているという。

日本興亜損害保険株式会社

<http://www.nipponkoa.co.jp/>

## セミナー・展示会情報

ここが知りたかった！

新商品並びに最新テクノロジーを一挙に公開  
テレビ会議トップ 3 メーカー集結セミナー

日時:6 月 4 日(水)13:30 ~ (受付開始 13:00 ~ )

場所:株式会社大塚商会

中部支社 1F プレゼンテーションルーム

主催:株式会社大塚商会

協力:ポリコムジャパン株式会社、

ソニーマーケティング株式会社

日本タンバーク株式会社

詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/0604bb/>

Polycom Day ~ ビデオ会議の海外展開をスムーズに！ユーザー事例とポリコム グローバル サービスのご紹介

日時:6 月 5 日(木) 14:00~16:45 (13:45 受付開始)

会場:ポリコムジャパン株式会社 セミナールーム

(東京都千代田区)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/080605/>

\* 松下電器産業によるユーザ事例発表もあり。

Polycom Education Road Show

日時:6 月 18 日(水)、19 日(木)各日程の開催

13:30~17:20(13:15 受付開始)

場所:ポリコムジャパン株式会社 セミナールーム

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:

[http://www.polycom.co.jp/event/education\\_roadshow/](http://www.polycom.co.jp/event/education_roadshow/)

\*米国遠隔教育協会プレジデント Marci Powell 氏講演。

## ZDNet Japan スペシャル

ZDNet Japan (<http://japan.zdnet.com/>) スペシャルで 2 月 7 日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本もコラムを何回か書かせていただくことになりました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

進化するテレビ会議

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

- (14) 一会議システムの効果を生み出す最良の方法(5 月 29 日)
- (13) 一マイクロソフト:ウェブ会議はもっと手軽でなければならない(5 月 27 日)
- (12) 一ブイキューブ:セミナーやセールスなどに広がり見せるビジュアルコミュニケーション(5 月 20 日)
- (11) 一ソニー:AV メーカーらしさを追求したビデオ会議システム(5 月 13 日)
- (10) 一ウェブエックス:実務者の共同作業に適したウェブ会議(4 月 24 日)
- (9) データ共有でメリット活かすウェブ会議システム(4 月 10 日)
- (8) 導入しやすくなってきた会議システム(4 月 3 日)
- (7) 単純には進まなかった会議システムの IP 化(3 月 27 日)
- (6) アエスラ:通信機器のノウハウ活かす会議システム(3 月 19 日)
- (5) タンバーク:業務を革新させるビデオ会議システム(3 月 10 日)
- (4) ポリコム:会議の質を変える HD 対応からテレプレゼンスへ(2 月 29 日)
- (3) NTT アイティ:会議システムは業務改善ツール(2 月 21 日)
- (2) ビジュアルコミュニケーションの歴史(2 月 14 日)
- (1) ホウレンソウと遠隔会議システムの深い関係(2 月 7 日)

## 編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

イタリアのテレビ会議メーカー アエスラ社 (<http://www.aethra.co.jp>) 発行のニュースレターにコラムを執筆させて頂きました。イタリア語ですが、よろしければご覧いただければ幸いです。

La videocomunicazione in Giappone

[http://www.antechsoft.com/dynamail/aethra/index.php?page=dett\\_news&id=1&id\\_news=14&from=2](http://www.antechsoft.com/dynamail/aethra/index.php?page=dett_news&id=1&id_news=14&from=2)

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介